

SDGs (持続可能な開発目標)

埼玉産業人クラブと日刊工業新聞社は18日、パレスホテル大宮（さいたま市大宮区）で「第41回埼玉県産業振興懇談会」を開いた。国連の持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいる企業5社によるプレゼンテーションを実施。5人の経営者はいずれも「成功のカギはトップのリーダーシップにかかっている」ことを示した。来場した約140人の経営者らは、自社にSDGsの精神を取り入れて事業を一段と成長させるべく、真剣に聞き入った。



SDGsは、2030年までに達成する国際目標として、17の目標（ゴール）と169のターゲット、232の指針を定めている。「地球上の誰一人として取り残さない」を誓い、15年の国連サミットで検討課題（アジェンダ）として採択された。

30年までの国際目標

加された。SDGsの17のゴールは、1貧困をなくそう、2飢餓をゼロに、3すべての人の健康と福祉、4質の高い教育をみんなに、5ジェンダー平等を、6安全な水とトイレを世界中に、7エネルギーをみんなに、8働きがいも経済成長も、9産業と技術革新の基盤をつくろう、10人や国の不平等をなくそう、11住み続けられるまちづくりを、12つくる責任つかう責任、13気候変動に具体的な対策を、14海の豊かさを守ろう、15陸の豊かさを守ろう、16平和と公正、17パートナーシップで目標を達成しよう。関係省庁が連携した取り組みを掲げている。

日本政府の方針に基づき、都道府県や市町村といった自治体レベルでもSDGsに取り組む動きが広がっている。

埼玉県は、大野裕知事が「埼玉県版SDGs」を実現するとして政策に掲げた。埼玉県は5年計画に基づいて進めている施策をSDGsの17の目標にリンクさせて、「誰ひとり取り残さない、持続可能な発展・成長する埼玉県づくりを目指し」としている。

当社は卵殻を使用した二酸化炭素CO₂削減モデルによるSDGsの推進に取り組んでいます。

近年、海洋プラスチック問題への関心が高まり、脱プラスチックの動きやバイオマス（植物由来資源）チェックの普及が加速しています。こうした背景から行政を含めSDGsへの取り組みが始まっているように思います。SDGsの目標12の持続可能な消費と生産パターンの確保は、2020年までに「廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する」と記さ

サムライトレーディング 櫻井 裕也 社長

れています。残り約1年ですが、達成が可能なところ、疑問を持っています。

00年から05年までのCO₂排出量のうち、年間約41億トンは森林や海に吸収されず大気中に放出されているようです。このまま対策をとらずにいうと温暖化が進み、海面上昇や国土面積の狭小化につながることを防ぎたい。今できることを、今すぐ行いたい。

物の発生量を減らし、廃棄物を徹底にリサイクルすることを目指しています。

例えば従来、産業廃棄物削減することに成功して、当社は、卵殻パウダーを紙の代わりに10トンにパウダーを利用して、50%は削減することに成功しています。

循環型社会システム実現

ただ、よい商品製造しても、みなさんに知ってもらえない場合は、意味をなさないので、開業しています。年明DGSを広く認知して、企業へのワークショップのため「エコマッショント」いう活動を実施しています。

現在、県内の事業所や金融機関に向けて同プロジェクトに関連したポスターを店頭などに貼って頂き、SDGsの啓発活動を行っています。



加工品販社と卵殻を資源化

当社の経営は、同業種のみならず異業種とつながり、優良企業とのよい部分を自社に取り入れることが成り立っています。その際、国際後継者フォーラムや川口商工会議所、そして川口機械工業協同組合などを活用しています。また「彩の国埼玉」や「環境マシメントシステム」、「多様な働き方実践企業」など外部評価制度も利用しています。

フジテック 藤田 昭一 社長

2018年からSDGsに賛同し、取り組みを始めています。社会に選ばれる企業になるためです。またSDGsが稼働ツールとして分かりやすく、企業経営に浸透させやすいと言えます。CSR（企業の社会的責任）活動からSDGsに活用できることも挙げられます。

成にはCSRは欠かせないと考えています。SDGsは、CSRの発展型です。例えば「環境教育の受動もついています。SDGsの17項目に当てはめていき、SDGsの達成域イベントへの参加



SDGs達成CSR不可欠

や企業訪問を通して情報は伝達していきます。30年にはSDGsを達成し、40年には社会に書き出して17項目に分類し、機密紙に書き出すグループワークを実施するほか、カードゲームを通して楽しくSDGsを学ぶ試みも取り入れています。

今後の取り組みとして、2020年以降は「SDGsに取組みやすき」を推進委員会」を設け、169ある目標の絞り込みやSDGsの方針決定、周知方法を検討していく予定です。

社会に選ばれる企業に

埼玉県、SDGsを県政の指針に

県幹部6氏・4社トップが意見交換

エネルギー分野の施策について



サムライトレーディング
社長
櫻井 裕也氏

サムライトレーディングでクリーンに」と親和性があると思います。県で、次世代住宅産業プロジェクトに取り組んでいいます。地中熱や太陽光など新たなエネルギーを活用して、省エネを実現するスマート住宅向け技術の開発を実施してきます。このプロジェクトで



埼玉県産業支援課長
藤田 努氏

能を評価をし、さらなる高性能化を目指しています。企業・研究機関はあるのでしょうか。また、県ではどのような支援を考えていますか。県産業支援課 藤田 努氏 県内にプラスチック製造業は多いですが、研究開発の細細については状況を把握できていないのが実情です。18年度、県内プラスチック製造業者100社にアンケート調査を実施しました。代替素材を検討、既に実施しているのは16社ありましたが、県内の大手2社は耐久性などを考慮して慎重な姿勢を示しました。埼玉県ものづくりに技術・製品開発支援事業では19年度、環境対応型プラスチックの研究開発に対して補助率を3分の2に上げて上限額を通常750万円を1000万円とする優遇措置をとり、1社を採択しました。県産業技術総合センターでは、新素材への対応を促すために小型の射出成形機を導入し、役立ててもらおうと考えています。

県内16社代替素材の研究開発を推進

SDGs推進企業登録制度について



日さく 社長
若林 直樹氏

日さく 若林直樹社長 ます。こうした登録制度埼玉県は県内企業のSDGsへの取り組みについて、例えば「SDGs推進企業登録制度」などを始めていますが、国が認証制度のガイドラインを作るといふ動きが出て

先端産業創造、産学連携で66テーマ支援



埼玉県参事兼先端産業課長
高橋 利男氏

状況や今後の可能性について、お考えをお聞かせください。高橋課長 大学などの研究シーズと県内中小企業の優れた技術を融合させて実用化、事業化を一貫して支援する先端産業創造プロジェクトを14年度から推進しています。19年度までに企業主体の研究開発で124テーマ、産学連携では66テーマを支援しています。革新的な研究開発を進めるためには大学などの先端的な研究シーズを活用することがきわめて有効です。19年度は県内中小企業と連携していきます。

産業・経済成長の観点で推進策を



フジテック 社長
藤田 昭一氏

フジテック 藤田昭一社長 県は産業・経済の成長といった観点からSDGsをどのよう県内企業や県民に周知させていきますか。藤田課長 SDGsは認知度が低いのが大きな問題ですので、産業労働部と環境部でセミナーを

AIプラットフォーム整備



関係するため、さらに深い事業化を目指します。藤田課長 SDGsに關連して県が企業に期待していることは何ですか。加藤部長 SDGsへの取り組み方次第では、ビジネスチャンスにつながりますが、リスクにもなります。多様な人材を使つて雇用環境を整えなければ、従業員による問題を受けるリスクもあります。SDGsをぜひビジネスチャンスにしたいと考えています。開発途上の進展にあたって海外展開にもビジネスチャンスがあり、SDGsにベクトルを合わせた全体的な企業の取り組みもチャンスにつながります。持つて技術を使つて30年の地球規模の目標を解決する一つの力になっていただけるとありがたいと期待しています。県も企業と一緒に全力でSDGsを推進していきます。

【産業界】
サムライトレーディング社長 櫻井 裕也氏
日さく社長 若林 直樹氏
フジテック社長 藤田 昭一氏
八洲電業社社長 吉村 光司氏
【埼玉県】
産業労働部長 加藤 和男氏
産業労働政策課長 野尻 一敏氏
産業支援課長 藤田 努氏
参事兼先端産業課長 高橋 利男氏
雇用労働課長 田中 健氏
埼玉県産業振興公社理事長 織田 秀明氏
【司会】
日刊工業新聞社さいたま総局長 安久井 建市